



ふるの30^{どスイー}より、気温^{きおん}の30^{あつ かん}のほうが暑^{あつ}く感^{かん}じるのはなぜ

わたしたちは^{くうき ふく き}空気の服^きを着^きている

ふるの30^{どスイー}より、気温^{きおん}の30^{あつ かん}のほうが暑^{あつ}く感^{かん}じるのはるのは、わたしたちの着^きている、^{くうき ふく かんけい}空気の服^きに^{かんけい}関係^{かんけい}があるのです。

わたしたち人間^{にんげん}は、暑^{あつ}いときも寒^{さむ}いときも、常^{つね}に36~37^{たいおん たも}に体温^{たいおん}を保^{たも}っています。

そして、わたしたちの皮^ひふの表^{ひょうめん}面^{めん}には、^{くうき そう}空気の層^{そう}ができて^{でき}ているため、わたしたちはいつも、^{くうき ふく き}空気の服^きを着^きているようなもので、その^{くうき}空気の服^きが、わたしたちの体温^{たいおん}を、常^{つね}に36~37^{たも}に保^{たも}つのに^{やくだ}役立^{やくだ}っているのです。

^{くうき ふく}空気の服^きのひみつ

なぜ^{くうき ふく たいおん たも やくだ}空気の服^きが体温^{たいおん}を保^{たも}つのに^{やくだ}役立^{やくだ}っているかという^{くうき ねつ つた のうりよく よわ}と、^{くうき}空気^きは熱^{ねつ}を伝^{つた}える能^{のうりよく}力^{つよ}が弱^{よわ}く、^{たいおん}体温^{たいおん}を、^{くうき そう そと}空気の層^{そう}の外^{そと}へに^{がしにく}がしにく^いからです。

それに^{みず}ひきかえ、^{くうき やく ばい ねつ つた のうりよく つよ}水^{みず}は^{くうき}空気^きの約^{やく}25倍^{ばい}も熱^{ねつ}を伝^{つた}える能^{のうりよく}力^{つよ}が強^{つよ}いので、30^{おふる}おふるに入^いると、^{ひ ひょうめん ちよくせつ}皮^ひふの表^{ひょうめん}面^{めん}が^{みず}直接^{ちよくせつ}30^{おふる}の水^{みず}に^{ふれる}ふれることになり、^{たいおん つぎ つぎ}体温^{たいおん}は次^{つぎ}から次^{つぎ}へと^ううばわ^われて、^{ひ おんど}皮^ひふの温^{おんど}度は30^{ちか}近く^{ちか}まで^さ下^さがって^{しま}います。

しかし、^{くうき ばあい ねつ たいおん たも}空^{くうき}気^きの場合^{ばあい}は、熱^{ねつ}をに^{がしにく}がしにく^いため、体温^{たいおん}は36~37^{たいおん たも}に保^{たも}たれて^{いま}います。そのため、^{おな}同^{おな}じ30^{おふる}でも、^{ひ おんど}皮^ひふの温^{おんど}度が30^{ちか}近く^{ちか}まで^さ下^さがるおふるは、^{ぬる}ぬる^いとか^{つめ}冷^{つめ}たいと感^{かん}じますが、^{ひ おんど たか}皮^ひふの温^{おんど}度^{たか}が^{くうき ちゆう きおん}高^{ちゆう}い空^{くうき}気^き中^{ちゆう}(^{きおん}気^き温^{おん})^{あつ かん}では、暑^{あつ}いと感^{かん}じるのです。

このように、暑^{あつ}いと冷^{つめ}たいと感^{かん}じるのは、^{そと おんど}外^{そと}の温^{おんど}度^{たか}でき^まるのではなく、^{ひ おんど}皮^ひふの温^{おんど}度^{たか}でき^まるのです。(監修・保志 宏)

